

ODIP トランスフォーマ 3.3 リリースノート

2017/02/01

(株) インテリジェント・モデル

- ODIP は、（株）インテリジェント・モデル社の登録商標です。
- 本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、（株）インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。
- 本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

## 目 次

A.	機能追加・拡張 .....	4
1.	Teradata への対応 .....	4
(1)	DBMS 名「teradata」の追加 .....	4
(2)	teradata.properties の追加 .....	4
2.	MIDMOST への対応 .....	6
B.	その他の変更と修正の履歴 .....	7
(1)	RHEL7/CentOS7 で発生する問題の修正 .....	7
(2)	startserver.sh コマンドの未使用オプションの削除 .....	7

## A. 機能追加・拡張

### 1. Teradata への対応

#### (1) DBMS 名「teradata」の追加

repreg.sh(bat)、repexp.sh(bat)などのトランスフォーマ・リポジトリのDBMS名を指定するコマンドで、「teradata」が指定できるようになりました。

#### (2) teradata.properties の追加

ODIP トランスフォーマの config/jdbcsample フォルダに、teradata.properties が追加されました。JDBC の URL や ODIP が実行する TPT スクリプトの内容の変更が必要な場合は、teradata.properties を config 直下にコピーして値を変更してください。

表 1 は teradata.properties で使用可能な主なプロパティになります。(変更の必要のないプロパティは記載していません。)

表 1 teradata.properties の主なプロパティ

プロパティ名	説明
jdbc.url	JDBC ドライバへ渡す Teradata データベースへの URL を、<host>(ホスト名)などの変数を使用して指定します。指定できる変数は「表 2」を参照ください。 以下の値が設定されています。 jdbc:teradata://<host>/CHARSET=UTF16
loader.command	tbuild コマンドのテンプレートを指定します。 以下のコマンドが設定されています。 tbuild -f <tptfile> -e UTF-8 -j <jobname> -L <logdir> -o
loader.control	batchMain.conf の WriteType および DetailWriteType が 3 または 5 のときに実行する TPT スクリプトを、<table_name>(テーブル名)などの変数を使用して指定します。 指定できる変数は「表 3」を参照ください。
loader.control.load	ユーザビューのロードタイプが「再作成」「全置換」の場合に使用する TPT スクリプトのテンプレートを指定します。 指定がない場合は loader.control の値が使用されます。
loader.control.update	ユーザビューのロードタイプが「再作成」「全置換」以外の場合に使用する TPT スクリプトのテンプレートを指定します。 指定がない場合は loader.control の値が使用されます。
loader.exitlevel	正常終了として扱う tbuild コマンドの戻り値の最大を指定します。 例えば 4 を指定すると、tbuild コマンドの戻り値が 4 のとき、ODIP はエラーとして扱わずに処理は正常終了になります。

表 2 jdbc.url で使用可能な変数

変数名	値
<host>	ODIP アドミニストレータ、ODIP プロセスマネージャで入力されたホスト名/IP アドレス
<dbnm>	ODIP アドミニストレータ、ODIP プロセスマネージャで入力されたデータベース名

表 3 loader.command/loader.control/loader.control.load/loader.control.update に使用可能な変数

変数名	値
<host>	ODIP アドミニストレータまたは ODIP プロセスマネージャで指定された「ホスト名」
<infile>	TPT スクリプトの Load または Update の入力となるデータファイルのフルパス
<table_name>	出力先テーブル名
<dbname>	ODIP アドミニストレータまたは ODIP プロセスマネージャで指定された「データベース名」
<user>	ログインユーザ ID
<pass>	ログインユーザのパスワード
<logdir>	ODIP トランスフォーマのログフォルダの相対パス
<column_names>	“カラム名”のカンマ区切りのリスト
<column_names_type>	“カラム名 VARCHAR(桁数)”のカンマ区切りのリスト
<insert_stmt>	出力テーブルへのインサート文 例) 'INSERT INTO スキーマ.テーブル(COL1, COL2, ...) VALUES (:COL1, :COL2, ...)'
<loadtype>	“LOAD” または “UPDATE” ユーザビューのロードタイプが「再作成」または「全置換」の場合に“LOAD”、それ以外の場合に“UPDATE”
<tptfile>	自動生成された TPT スクリプトファイルのフルパス
<jobname>	以下の組み合わせの文字列 “出力テーブル名_シーケンス番号_タイムスタンプ”

## 2. MIDMOST への対応

日本ユニシス株式会社のミドルウェアである、「MIDMOST」を使用した入出力に対応しました。

「MIDMOST」は処理の入出力テーブルとしては指定できますが、トランスフォーマ・リポジトリのデータソースとしては使用できません。そのため、`repreg.sh(bat)`、`repexp.sh(bat)`などの、トランスフォーマ・リポジトリのDBMS名を指定するコマンドには使用できません。

## B. その他の変更と修正の履歴

### (1) RHEL7/CentOS7 で発生する問題の修正

RHEL7 または CentOS7 で ODIP トランスフォーマを起動すると、以下のエラーが発生する  
場合がある問題が修正されました。

```
Version 3.2.8 ODIP Transformer Server ended with an error.  
Cause: String index out of range: -6
```

### (2) startserver.sh コマンドの未使用オプションの削除

startserver.sh -help で表示されるオプションに「-dd | -data\_dir トランスフォーマ・サーバがデータファイルを一時的に格納するディレクトリ名」 がありましたが、この  
オプションを指定しても実際にはデータファイルの場所として機能していなかったため、オ  
プションから削除されました。

一時的なデータファイルの場所は、batchMain.conf の LoadDataDir で指定を行ってくださ  
い。

以 上